

木古内沖座礁から140年

咸臨丸最後の航海に迫る

町民有志、研究書復刊へ

【木古内】幕末の軍艦「咸臨丸」が町内サラキ岬沖で座礁、沈没してから今年で140年となるのを記念し、町民有志でつくる「咸臨丸とサラキ岬に夢みる会」は同船の「最後の航海」の実相に迫る歴史研究家塚本謙蔵さん(78)＝札幌市＝の研究書を復刻させる。「咸臨丸、北へ」との題名で、9月上旬にも発行する。(大城道雄)

咸臨丸は江戸幕府の発注でオランダで建造され、太平洋横断の快挙を成し遂げた軍艦。戊辰戦争で幕府脱走軍の艦隊に使われ、最後は開拓使の輸送船となった。

座礁事故は1871年(明治4年)に発生。仙台藩白石の北海道移住団401人を乗せて

函館から小樽に向かう途中、サラキ岬沖で暗礁に乗り上げた。ただ、座礁の原因が諸説あるなど謎が多い。

塚本さんは札幌白石高の地理教諭時代の1977年ごろ、咸臨丸に興味を持って調査を始めた。公文書には乗員は全員無事と記されてきたものの、サラキ

岬近くの大泉寺の「過去帳」に乗船者の名前を見つければ、死者が1人いたことを突き止めた。

塚本さんは「過去の文献には一切書かれていなかった事実。本当に驚いた」と振り返る。塚本さんは93年、こうした事実や咸臨丸の歴史、仙台藩片倉家の移住の経緯などをまとめた「『咸臨丸』最後の乗船者」と題した研究書を300部自費出版した。

しかし一般の人の目に触れる機会は少なかったため、「夢みる会」は同書を改題し、500部発行することにした。A5判、240ページ。税込み2千円。9月24、25日の「咸臨丸全国まちづくりサミット」などの記念行事の会場でも販売する。

同会は「謎に包まれた咸臨丸の晩年が克明に描かれている。多くの人に読んでほしい」と話している。

問い合わせは町観光協会 ☎01392・22046へ。



校正中の研究書(右手前)を前に、咸臨丸の魅力を語る塚本さん＝札幌市内

咸臨丸終焉140年を期して待望の再発刊!!

謎多き咸臨丸の晩年を解く...

『咸臨丸、北へ』

～最後の乗船者・白石片倉小十郎一族の足跡～

著者/塚本謙蔵

- 咸臨丸は何故に北の地・木古内サラキ岬で沈む運命にあったのか?
- そして、変革の時代に翻弄された最後の乗船者・白石の人々の足跡を辿る...
- 是非ともご一読下さい。

定価/2,000円(税込)+送料500円



勝海舟の子孫・五味澄子氏も絶賛!!

「激動の幕末維新に活躍した咸臨丸。ほとんど知られていない維新後の足跡にスポットをあてていただき感謝します。」

「幕末の太平洋横断成功を国威発揚に利用された咸臨丸は栄光と悲劇の生涯でした。その史実をお汲み取り下さい。」

小杉雅之進の子孫・小杉伸一氏も推奨!!



★購入申込み方法 購入ご希望の方は下記の申込書を下記の事務局までご送付下さい。
送付先 〒049-0422 北海道上磯郡木古内町字本町217-3 木古内町観光協会
電話 01392-2-2046 FAX 01392-2-3411

★送付する書籍に振込用紙を同封しますので、書籍到着後10日以内に代金及び送料をご納入下さいますようお願い申し上げます。

発行/木古内町観光協会・咸臨丸とサラキ岬に夢みる会

『咸臨丸、北へ』購入申込書

| | |
|--------|---|
| 購入申込部数 | 部 |
|--------|---|

| | |
|-------|-----|
| 申込者氏名 | |
| 住所 | 〒 - |
| 電話 | |